

地理歴史科(歴史領域)

I. 単元 欧米諸国における近代化

II. 単元のねらいと評価規準

ねらい

近現代の世界において重要な「自由」と「平等」の概念が、市民革命や産業革命を経て形成されてきたことについて、理解が深まるようにする。また、国民国家や資本主義の成立における社会の変化について、事象相互の関連などを多面的・多角的に考察し、表現できるようにする。

評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
欧米の市民革命や国民統合の動向などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解し、「自由」と「平等」の概念について理解を深めている。	国民国家の成立の背景や影響に着目して、政治変革の特徴や社会の変化、事象相互の関連などを多面的・多角的に考察し、表現している。	欧米の市民革命や社会の変化などに関する課題について、主体的に調べたり、様々な意見を受容したりして、意欲的に追究しようとしている。

III. 単元の指導計画(5時間)

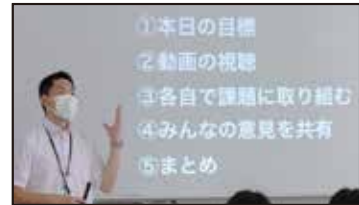
時間	学習活動		
	単元を貫く問い	近代化の中で生まれた「自由」や「平等」は、現代の「自由」や「平等」と同じなのだろうか	
1	イギリスの革命とアメリカの独立	アメリカの独立におけるMVPは誰だろう 事象相互のつながりに関わる視点 ・ワシントン、ジェファソン、フランクリンの三者に関する資料を基にMVPを選び、その根拠をまとめ、クラスで共有する。	
2	フランス革命	フランス人権宣言をレビューしよう 推移に関わる視点 事象相互のつながりに関わる視点 ・貴族、豊かな市民、貧しい市民の気持ちに立って、フランス人権宣言を★の数(1~5個)で評価し、その理由とともに示す。	
3	フランス革命の影響と国民意識の芽生え	絵に込められた作者のメッセージを読み解こう 推移に関わる視点 事象相互のつながりに関わる視点 ・ゴヤ『マドリッド 1808年5月3日』を1人1台端末で見て、気付いたことや疑問に感じたことを、その端末から投稿して、意見を出し合う。	
本時	4	産業革命で変わる社会	産業革命をレビューしよう 比較に関わる視点 産業革命とIT革命の共通点・相違点は何だろう 現在とのつながりに関わる視点
	5	イギリスの繁栄と国際分業体制	産業革命後の「自由」は、現代の「自由」と同じなのだろうか 比較に関わる視点 現在とのつながりに関わる視点 ・アダム＝スミスが『国富論』で述べた「自由」や、人権宣言の「自由」などを基に、産業革命後の「自由」について考察する。

IV. 授業実践

本時の概要

1人1台端末を活用して生徒一人一人の学びのペースに配慮しながら、産業革命についての基本的な事項を理解する。また、産業革命と現代のIT革命との共通点や相違点について、生徒一人一人の考えを視覚化し、全体で意見を共有しながら、多面的・多角的に考察する。

導入 本時の学習内容と学習活動の流れを確認する



スライドで説明する

展開① 産業革命について基本的な知識を習得する

今までは、教師が板書して説明し、生徒はノートを写していた。

教師が説明していた内容をPowerPointを使って解説動画にまとめ、生徒に視聴させることにした。

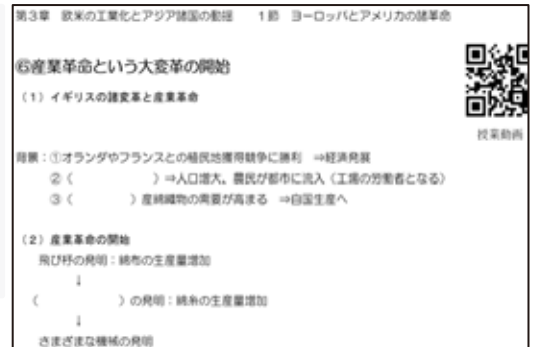
生徒は自分の理解度に合わせて、解説動画を再生しながら、ワークシートの課題に取り組んだ。

1人1台端末活用の利点

- ・「解説動画」は、聞き逃しても何度でも確認できる。また、いつでも視聴できるので、家庭学習や欠席した生徒へのフォローに活用できる。
- ・拡大機能を用いて、地図などをじっくり見られる。
- ・ワークシートを終えた生徒には、関心をもったことを、さらにインターネットで調べるよう、働きかけることができる。



個別最適な学びの実現を目指す



ワークシートに解説動画のQRコードを付ける



- ・解説動画
- ・ワークシート

展開② 課題に取り組み、産業革命について考えをまとめる

問い 産業革命をレビューしよう

配布した複数のデジタル資料等を基に、「人々の生活」に着目して、産業革命の光と影を読み取る。それらの光と影を踏まえて、産業革命を★の数で評価し、理由も含めてレビュー風にまとめる。

問いの工夫

- ・答えが一つではない、生徒が様々な視点から考えることができる問い。
- ・他の生徒の考えを、聞いてみたくなる問い。

④ イギリスにおける労働者の生活

リバプールでは1840年には上流階級の平均寿命は35歳、労働者階級のそれはわずか15歳であった。・・・死亡率がこれほど高いのは、主に労働者階級の児童の高い死亡率によるものだ。・・・すでに引用した報告でマンチェスターにおいては、労働者の子どもの57%強が5歳前に死亡するが、もっと上の階級の子どものみでは、それは20%に満たない。
(エンゲルス『イギリスにおける労働者階級の状態』)

1人1台端末で複数の資料を提示する



★の数とその理由を入力させる

Formsを用いて回答を回収

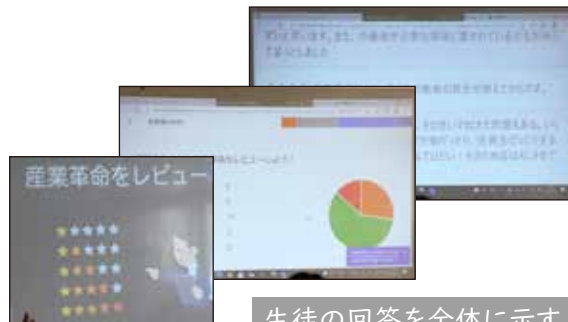
展開③ 意見を共有する

全体の回答結果を確認する。
回答に対する先生の補足説明で理解を深める。

共有における工夫

- ・生徒が安心して意見を出し合う雰囲気を醸成する。
- ・生徒の回答を生かして、補足説明を行う。
- ・資料から読み取ったことを基に、自分の考えをしっかりとまとめた回答を評価する。
- ・他の生徒が気付かない視点からの回答を評価し、多様な見方の大切さに気付かせる。
- ・回答はデータとして保存し、その後の生徒への声掛けや、観点別学習状況の評価に活用する。

※生徒の状況や、質問の内容によっては、回答した生徒が特定できないように配慮して提示する。



生徒の回答を全体に示す

生徒の回答から

- (★★★★) 産業革命により、多くの労働者の賃金が増えたからです。
- (★★★) 産業革命が起こり、私たちの生活は大きく変わった。しかし、それにより環境問題が加速したから。

まとめ よりよい社会の実現に向けた課題を捉える

問い 産業革命とIT革命の共通点・相違点は何だろう

国内や国家間の経済的格差は、産業革命期だけではなく、今日も存在しており、解決を目指すべき課題であることに気付く。



現代的な諸課題を歴史的に捉える学びを繰り返すことで、歴史を学ぶことの意義を理解していく。

単元のねらいに迫る問い

- ・産業革命とIT革命との比較により、現代社会が直面している(これから起こる)課題について、考察させる。
- ・産業革命における学びが、今を理解するために活用できることに気付かせ、「単元を貫く問い」(近代化の中で生まれた「自由」や「平等」は、現代の「自由」や「平等」と同じなのだろうか)に迫らせる。

※Wordファイルに入力して、Teamsの「課題」機能を用いて、提出させる。

生徒の回答から

- ・共通点は「環境汚染」。昔は構わず汚していたし、今も環境に少しは配慮してはいるけど、環境を悪くしていることには変わらない。
- ・共通している点は、生活していく過程において圧倒的な影響を与えるほどの利便性。
- ・何かのきっかけで、仕事や職種が増えたり、需要が変化したりすることは同じ。そして、それによって失業者が出たり、働き手の満足度が低くなったりすることも同じ。

〈本時のポイント〉

1. 生徒の学びを深める、解決したくなる問い

学びを深めるために必要なことは、問いの工夫である。展開②の問いは、インターネットのサイトなどでよく目にするレビュー形式をとることで、思わず取り組みたくなる仕掛けになっている。加えて、ICTの即時性という利点を生かし、レビュー結果を、瞬時に全体で共有できるようにしている。

2. 学びの連続性に気付かせる問い

歴史の学習は高校卒業で完結するものではない。卒業後も、歴史的事象を多面的・多角的に捉え、公正に判断することができるよう、授業を通して、歴史の学び方を習得できるようにしなければならない。

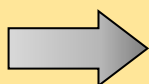
まとめにおける「問い」の意図は、産業革命を学ぶ意義は何なのか、現代のIT革命との比較を通して気付かせる点にある。学んだ「歴史的な見方・考え方」を働かせて、産業革命を深く考察する「問い」なのである。

V. 学習評価の工夫

思考・判断・表現

産業革命とIT革命の共通点・相違点は何だろう

思考力が、どの程度身に付いたのか
しっかり把握したい。



評価のポイントを具体的に説明し、
問いのGOALを生徒と共有する。

評価のポイント

- ・産業革命とIT革命との共通点や相違点を、それぞれ分かりやすく示しているか。
- ・産業革命期と現代とのつながりや連続性について、根拠を示しながら考察しているか。

- ・生徒は、産業革命とIT革命が社会にもたらした影響についてだけでなく、自分の考えも合わせて、解答してくれる。そのため、意図した解答が得られ、評価がしやすくなる。
- ・机間指導において、考えがまとまらない生徒に対してアドバイスを
する際、評価のポイントを示しているため、考えるヒントを与えやすい。



机間指導は欠かせない

VI. 授業者より今後に向けて

「主体的・対話的で深い学び」を実現するためにICTは非常に有効なツールですが、ICTの活用は、手段であって目的ではありません。今回の授業を準備する中でも特に時間を要した部分は、問いの設定と、そのための史資料の収集と選択でした。十分な教材研究を前提として、適切な問いを設定し、「何ができるようにするか」を目的としてICTを活用する、という姿勢が大切だと改めて感じました。

歴史を教える意義は不変ですが、時代とともに教え方が変わっていくことは必然です。学習者中心の授業を実践するということは、私を含めた多くの教員が、自分で受けた経験のない授業をデザインするという事です。困難であり、うまくいかない時もあるでしょうが、身近な大人が試行錯誤しながら、時代に合わせて授業を変えていく姿を生徒に見せることこそが、教育者の使命であると感じています。



過去の調査研究との関連



深い学びの鍵となる
「見方・考え方」について
まとめました。
令和2(2020)年3月発行



授業改善のポイントとして、
教師からの「問いの工夫」
に焦点を当てました。
令和3(2021)年3月発行

栃木県総合教育センター
令和4(2022)年3月 発行

〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町1070
Tel 028-665-7204 (研究調査部)
<http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>

